

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
第14回部会

協議記録

日時：令和3年3月18日（木）14：00～16：30

会場：大館市北地区コミュニティーセンター 別館2階 多目的室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第14回部会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	旅費	備考	
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	○		
			主任	畠沢 健志	○		
2	素材生産者	(有)阿部林業				欠	
3		(有)畠山造林	代表取締役	佐藤 四郎	○		
4		(有)花田造材部				欠	
5		(有)伊東農園		代表取締役	伊東 毅	○	
				部長	佐藤 保	○	
6		(有)新林林業		総括部長	赤石 勝正	○	
7		(有)山田造材部		総務担当	菊池 和俊	○	
8			山一林業(株)				欠
9			石上木材				欠
10			小林林業				欠
11			(有)佐栄林業				欠
12			(有)中田工業				欠
13			(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	○	
14	苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部				欠	
15		農事組合法人上仏社営農組合				欠	
16	製材・加工事業者	遠藤林業(株)				欠	
17		(株)沓澤製材所				欠	
18		九島木材(株)				欠	
19		藤島木材工業(株)、藤島林産(株)	代表取締役社長	藤島 眞砂子	○		
20		ニツ井パネル(株)				欠	
21			古河林業(株)	所長	福森 卓	○	
				工場長	藤島 勉	○	
22		ティンバラム(株)				欠	
23	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合				欠	
24	木質バイオマス事業者	北秋容器(株)				欠	
25		ポルター秋田(株)	経営企画部長	花田 元	○		
26		K S ウッドソリューション(株)				欠	
27	木材流通事業者	物林(株)	国産材営業室	関口 祐之	○		
			資材グループ長	田口 慎二	○	リモート参加	
			国産材戦略室	齋藤 政子	○	リモート参加	
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司	○		
29	市村	大館市	林政課長	古川 泰幸			
			林政課長補佐	小棚木 信晴			
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生			
			林政課木材産業係職員	安部 千夏			
			林政課森林整備係主査	安保 貴洋			
			林政課森林整備係職員	仲谷 寿敬			
30	北秋田市		副主幹	藤田 学			
			主事	長岐 英泰			
31		上小阿仁村	主査	田村 勇輝			

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	旅費	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	代表取締役	高田 克彦		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	旅費	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和		
			総括森林整備官	岸野 賢一		
			主任森林整備官	片岡 雄		
2	行政機関	米代東部森林管理署上小阿仁支署	支署長	後藤 敏		
			総括森林整備官	古川 博哉		
3		秋田県農林水産部	主幹	木村 明憲		
4		秋田県北秋田地域振興局	主幹兼所長	工藤 純一		
			副主幹	小笠原 信幸		

第14回部会では、「令和2年度事業報告」、「令和3年度事業」について報告・協議を行いました。

【協議内容】

1 開会

2 あいさつ＜事務局長＞

- ・本日の部会では令和2年度における事業の取組状況の報告とモデル事業の最終年度となる令和3年度の取組内容について協議いただきたい。
- ・特に協定フィールドの取り組みは、国有林と民有林が一体となった取り組みを広く発信していきたい。
- ・先月開催された、林業成長産業化地域サミットにおいて、本協議会会長の福原が地域の代表者としてメッセージを発信し、その際に、大館市が秋田県初となる「ゼロカーボンシティ」宣言をしたことを紹介した。
- ・カーボンニュートラルや、SDGs、ESG投資における木材の積極的な活用は、国内だけでなく、世界的な動きであり、今後、林業及び木材産業が変革する時期を迎える。モデル事業は来年度で終了するが、補助の終了が事業の終了ではなく、これを足掛かりとして、皆様と共に継続して取り組んでいきたい。

3 協議案件

(1) 令和2年度事業報告

①大館市・北秋田市・上小阿仁村

＜大館市林政課＞

- ・新型コロナウイルス感染症に係る支援策の状況、大館市木材利用促進計画の策定、森林経営管理制度の進捗状況などについて報告。

＜北秋田市農林課＞

- ・市有林造林事業、林道整備事業、木材需要拡大緊急対策事業、森林体験学習事業、森林・木材活用地域連携事業について報告。

＜上小阿仁村産業課＞

- ・造林事業、路網整備事業、森林情報デジタル化推進事業、東京農大との包括連携協定について報告。

◇質疑応答

＜アドバイザー：木材高度加工研究所＞

- Q、新型コロナウイルス感染症に係る各市村の対策を行っての効果等について報告いただきたい。

＜大館市林政課＞

A、現在、事業者へのアンケート調査を実施しており、調査項目の中で売上に関する前年度比の状況の確認を行っているところ。現在とりまとめている中でも軒並み減収の状況であるが、一部で増収に転じている事業者もいる。家にいる時間が長くなった関係でネット通販が伸びているほか、ふるさと納税での返礼品も好調だったようだ。アンケート調査がまとまり次第、情報共有させていただく。

＜北秋田市農林課＞

A、コロナウイルス感染症が拡大する前は住宅での木材利用に関する補助はなかったが、コロナウイルスの影響で木材需要が落ちていることから補助金を創設し、今年度は60件ほどの申込があった。住宅の着工数が減少する懸念があったが、活用いただくことができよかったと思う。

＜上小阿仁村＞

A、村では林業木材産業に限らず村内事業者一律に給付金を支給した。林業への影響は搬出間伐や主伐再造林の中止があったが、保育間伐等の搬出を伴わない施業に転換し、実施することができた。

＜木質バイオマス利用促進部会 部会員＞

Q、3市村全て同じ内容でなければならないことはないが、例えば大館市では森林経営管理制度に関する進捗状況の記載があるが、北秋田市・上小阿仁村では記載がない。進捗状況はどうなっているのか。同じ取り組みをされているはずなので、できれば様式を揃えるなどして見比べやすくしていただきたい。

＜大館市林政課＞

・事務局側（大館市）から統一された様式で各市村に依頼していなかったため、バラバラな報告となり申し訳ない。北秋田市・上小阿仁村からは口頭で説明できる範囲で情報提供をお願いしたい。

＜北秋田市農林課＞

・令和元年度から意向調査を実施しており、令和元年度は前山・黒沢地区、令和2年度は小森地区で実施。集積計画については、令和元年度意向調査を実施した地区での策定に向けて取り組んでいるところ。回答者数等の数値は手元に資料がないため、後日、当市で開催する意見交換会で報告したい。

＜上小阿仁村産業課＞

・令和元年度は仏社地区の意向調査を実施し、集積計画案を作成中。令和2年度は五反沢・沖田面地区で対象者は約450人、回答率は約60%。

②大館北秋田地域林業成長産業化協議会

＜事務局 大館市林政課＞

- ・幹事会、部会等の開催状況について報告。
- ・森林経営及び木材販売に係る協定（大館市有林）に基づく取り組みの進捗状況を報告。

⇒総務部会 部会長より伐採再造林等に関する取組結果を報告。

⇒総務部会 副部会長より販売に関する取組結果を報告。

◇質疑応答

＜総務部会 部会長＞

Q、造材の際に短尺にする場合があると思うが、検知の誤差が無いように対応した、とのことだがどのように対応されたのか。

＜総務部会 副部会長＞

A、現場に赴き検知をしっかりとっているか確認した。

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)＞

Q 1、販売資料の数値が合わない。

Q 2、5m造材について材積量はどのくらいか。新しい造材規格が増えたことで伐採側から工程が下がったという意見があるが、今後、この地域での丸太を生産していくにあたってはどのような方向性で取り組めば良いかは検討されているか。

＜総務部会 副部会長＞

A 1、数値に誤りがあるため修正する。

A 2、5m造材については100m³程度であった。協議会の取組の課題として大径材の利活用が挙げられているが、協議会内で大径材を扱える会員がいないことから、今回は試行的に取り組んでみたところ。付加価値の高い丸太を生産することは必要だが、造材単価との調整など事前の協議を行ってから実施すべきだったと思う。

＜再造林推進部会 副部会長＞

Q、補足だが、造材種類が増えると工程はどうしても下がってしまう。昨年度は2m、4m造材であったが、今年度は林相的にも同じ造材だと付加価値を下げてしまうことから、意識的に造材を工夫したところ。しかしながら、造材単価に反映されず、結果的に丸太の付加価値は最大限上げることができなかつたのではないかと感じる。

＜総務部会 副部会長＞

A、現場の方々との調整等打合せを密にして取り組んでいきたい。

- ・協議会予算の執行状況を報告。
 - ・再造林推進部会において「苗木生産者会議」を開催し、苗木の育苗スケジュール等をまとめたマニュアルを作成したことを報告。
- ⇒森林資源バイオエコノミー推進機構(株)より説明。苗木生産者毎の育苗スケジュール等をまとめた。関係者で育苗に係るスケジュールを把握いただくことが目的。
- ・林業従事者スキルアップ促進事業の取組結果（年代別支給対象者人数、資格取得件数、年代別支給額）を報告。
 - ・秋田スギ等地域材広報宣伝パンフレットデザインの完成版を報告。

- ・ 2021 林業成長産業化地域サミット in 最上・金山の開催結果を報告。
- ・ 都市部（東京都江東区・東京都渋谷区）やその他施設等への木材利用事例を報告。

（2）令和3年度事業について

①大館市・北秋田市・上小阿仁村

＜大館市林政課＞

- ・ 森林経営管理事業における間伐事業の実施、境界確認用使用作成業務、林業大学校研修生支援事業、「渋谷・大館交流の絆」ふるさとづくり事業について説明。

＜北秋田市農林課＞

- ・ 市有林造林事業、林道整備事業、チェンソーアート競技大会、都市と山村の友好の森事業、森林体験学習事業、森林・木材活用地域連携事業について説明。

＜上小阿仁村産業課＞

- ・ 造林事業、路網整備事業、秋田林業大学校による村有林実習、森林情報デジタル化推進事業、森林管理認証更新審査について説明。

◇意見集約

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)＞

- ・ 新型コロナウイルス感染症関連対策について意見を伺いたい。

＜総務部会 副部会長＞

- ・ 川下の更なる需要喚起が必要。
- ・ 地産外商を進めるための施策が必要。
- ・ 林野庁の木材利用に関する補助事業は年々予算消化が早まっている。民間需要を誘導するような施策があれば良いと思う。

＜秋田スギ・認証材利用促進部会 部会員＞

- ・ 公共施設での木材利用を促進していただきたい。公共物件が木造・木質化で動けば、民間もその方向で進んでいくと思う。

＜秋田スギ・認証材利用促進部会 部会員＞

- ・ 住宅部門で営業活動が思うようにできず、1年経過して今になって影響が出てきている。コロナが収束したから終わりではなく、引き続きの対策をお願いしたい。

②大館北秋田地域林業成長産業化協議会

＜事務局 大館市林政課＞

- ・取り組みのポイントとして、都市部等の地域外への木材供給を進めるとともに地域内の公共施設等の木造・木質化に取り組む。また、国有林との協定により森林共同施業団地での協調出荷を行う。
- ・重点プロジェクトについては例年並みの事業展開を予定している。部会については全体部会の開催数を減らすが、モデル事業終了後の継続的な取り組みについて検討をするため、個別部会の開催により具体的な話し合いを行いたい。
- ・令和3年度における森林経営及び木材販売に係る協定（大館市有林）に基づく取り組みについて再造林推進部会の皆様のご協力のもと実施案を練った。

⇒総務部会 部会長より計画について説明。

- ・協定フィールドにおいて早生樹（コウヨウザン等）を試験的に取り組む予定。

③意見交換

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)＞

- ・令和3年度の取り組みについて意見を伺いたい。

＜総務部会 副部会長＞

- ・モデル事業については最終年度となるが、最終年度で終わりとせず、せっかく作り上げたこの枠組みで次の展開を考えていければと改めて感じた。

＜再造林推進部会 部会長＞

- ・一貫作業については年度内で完結できれば一番良いと思うので、工程等についてしっかり組んでいただきたい。

＜再造林推進部会 副部会長＞

- ・森林作業道の開設スケジュール等を考慮すると、年度内の再造林の実施は厳しいのではないかと思う。事業体の協力等しっかり調整して進めるべき。

＜秋田スギ・認証材利用促進部会 部会員＞

- ・協議会の取組でどれだけ一般の方へのPRできるかが重要かと思う。

＜木質バイオマス利用促進部会 副部会長＞

- ・木質バイオマス利用促進部会では公共施設での積極的な木質バイオマスボイラー等の導入について要望することとしている。
- ・大館市木材利用促進計画のように木材をどんどん使っていく取り組みを進めることで、自ずとチップ用材も出てくる。そのような方向性が大事だと思う。

＜オブザーバー 米代東部森林管理署＞

- ・ 民国連携に関して運営会議を開催し、林道の利用やシステム販売に関する協議を行ったところ。着実に進めていきたい。
- ・ 局の方針として民国連携の取り組みを強化することとしている。広葉樹の活用や早生樹に関する現地検討会等を企画していきたい。
- ・ コロナウイルス感染症等への対応については令和2年度と同様の対応になると思う。
- ・ 協議会の取り組みについて対外的なPRも進めてほしい。

＜オブザーバー 米代東部森林管理署上小阿仁支署＞

- ・ 米代流域において地域経営管理計画が令和4年度末で期間終了し、新しい計画の樹立を予定している。新たな計画では民国連携について更に促進できるような内容としていきたいと考えている。

＜オブザーバー 秋田県農林水産部林業木材産業課＞

- ・ 林業成長産業化地域創出モデル事業については、令和3年度の事業要望を行ったところだが、令和2年度より少なくなる見込みである。
- ・ 地域構想に掲げた数値目標等の達成に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

＜オブザーバー 秋田県北秋田地域振興局農林部森づくり推進課＞

- ・ 令和3年度は最終年度となるため民国連携をはじめ、事業を成功できるように頑張っていたきたい。

4 講評

＜アドバイザー 木材高度加工研究所＞

- ・ 令和3年度が最終年度ということで、課題を出したり、事業の反省を行ったりするのは今日が最後。来年度の今頃は全て成果にしなければならない。上手くいかなかったとしても前向きに糧にするような取り組みを行う必要があると思う。
- ・ 外部に向かって地域の成長をPRして行ってほしい。

5 その他

- ・ 協議会関係者における異動者等について紹介。それぞれコメントをいただいた。

～ 閉 会 ～

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R3.3.18 第14回部会

